

『ROAD TO 2020～組織委員会／スポーツマネジャーからのメッセージ～』

「総合競技大会の魅力」

2026年、愛知県と名古屋市の共同開催にて「第20回アジア競技大会」が開催されることになりました。アジアオリンピック評議会が主催する4年に一度の総合競技大会で、日本としては1958年の東京、1994年の広島に続き、3回目の開催となります。

近々組織委員会が立ち上がるということで、2月上旬愛知県名古屋市に赴き、アジア競技大会開催計画の関係者の皆様に対して東京オリンピック組織委員会における「競技課（現スポーツ局の原形）」の設置や、スポーツマネジャーの採用に至るまでの経緯についてお話しさせていただきました。

愛知県や名古屋市の皆様との会話を通して、「総合競技大会はスポーツの祭典である。とはいえその祭典が社会に与える影響や世間に示す価値はスポーツの範囲を超える」ということを改めて実感し、開催都市として取り組む総合競技大会の計画調整の難しさや、開催する意義やその価値を、私自身がオリンピック開催に向けて拝見してきた東京都の皆様や組織委員会の活動と比較しながら学ぶことができました。

2026年、愛知県や名古屋市にはアジア諸国からトップレベルの選手や関係者が集まり、来日者は中部地方独特の素晴らしい文化や歴史に触れることとなります。愛知県民の皆さんは、オリンピックの競技数を超える数々の試合を目の前で応援することができるでしょうし、開催都市に行けなくても、メディアを通してエキサイティングな試合を観戦することができるでしょう。

フェンシングにおいても、世界ランキングを左右するポイントが付与されない大会とはいえ、パリとロサンゼルスの間地点、この大会での戦績が選手生命において重要なマイルストーンになっています。

オリンピックもアジア大会も、選手が最高のパフォーマンスが発揮できるような「競技計画」と、観客が最高のひとときを味わえる「運営計画」とのバランスを取りながら、一つ一つの競技大会が成功するように多くの方々が多様な側面から携われ、支えていらっしゃると感じました。今回の訪問によって、総合競技大会は、スポーツを通して様々な価値を広げることができるパワーを持っていると痛感しています。

東京オリンピックまで残すところ一年半しかありませんが、試合会場の競技エリアだけでなく、それ以外のところでもフェンシングやスポーツの価値、魅力、おもてなしが伝わるように努力し続けたいと思います。

このような気づきの機会を与えてくださった愛知県庁、名古屋市役所の皆様、貴重なお時間をいただき、心より御礼申し上げます。